

もも・ネクタリン特報 ②

令和6年3月29日
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

生育は、概ね例年並みになる見込みです。ただし、今後の気象によっては生育状況が変わる場合がありますので園地内の生育をよく確認して薬剤散布を実施して下さい。

また、せん孔細菌病の発生する園地では、春型枝病斑の切除を徹底して下さい。

(参考：平岡地点 過去開花日 R6 開花予想)

あかつき	平年	R6 (予想)	R5	R4	R3	R2
開花日	4/16	4/15頃	4/6	4/18	4/8	4/17



第2回薬剤散布 【もも・ネクタリン共通】

散布時期	開花 1～2 輪咲きの頃 (4 月中旬)	散布日	月	日
散布薬剤	水 100ℓ 当たり 展着剤 (アピオンE) 50ml ICボルドー412 3.3kg	散布量	ℓ	
対象病害虫	せん孔細菌病			
散布量	10a 当たり：350ℓ			
注意事項	① 混用順：水 ⇒ アピオンE ⇒ ICボルドー ② 展葉後のボルドー散布は、薬害発生の恐れがあるため時期を厳守する。 ③ アピオンEに代えて、KKステッカーの3,000倍を使用してもよい。 (KKステッカーは必ず最後に調合する) ④ ICボルドーに代えて、4-12式ボルドー液でもよい。			

第3回薬剤散布 【もも】 ※せん孔細菌病重要防除期間

散布時期	落花直後 (4 月下旬：樹全体の花が 80～90%散った頃)	散布日	月	日
散布薬剤	水 100ℓ 当たり 展着剤 (アピオンE) 50ml サムコルフロアブル 10 20ml (前日、2 回) パレード 15 フロアブル 50ml (前日、2 回) アグレプト水和剤 100g (60 日前、2 回)	散布量	ℓ	
対象病害虫	せん孔細菌病、黒星病、灰星病、うどんこ病、モモハモグリガ、ハマキムシ類			
散布量	10a 当たり：350ℓ			
注意事項	① アブラムシ類対策：ウララDFの2,000倍 (14 日前、2 回) を加用する。 ② アグレプト水和剤、アグリマイシン-100 等の使用回数は、合計 2 回までとする。尚、ぶどうにかかると種無し化が生じるため、飛散には注意する。			

次面には、ネクタリン第3回防除など記載

第3回薬剤散布【ネクタリン】 ※せん孔細菌病重要防除期間

散布時期	落花直後（4月下旬：樹全体の花が80～90%散った頃）		散布日	月	日
散布薬剤	水	100ℓ 当たり	散布量	ℓ	
	展着剤（アピオンE）	50ml			
	サムコルフロアブル 10	20ml	（3日前、2回）		
	パレード 15フロアブル	50ml	（前日、2回）		
	マイコシールド	66g	（28日前、5回）		
対象病害虫	せん孔細菌病、黒星病、灰星病、うどんこ病、モモハモグリガ、ハマキムシ類				
散布量	10a 当たり：350ℓ				
注意事項	①アブラムシ類対策：ウララDFの2,000倍（7日前、2回）を加用する。				

結実が心配される品種（川中島白桃など）は、必ず人工授粉を実施する

花粉が少ない品種や全く無い品種は、必ず人工授粉を行なってください。あらかじめ開葯し採取した花粉で受粉することが最良ですが、授粉樹（花粉の多い品種）で開花している花の花粉を毛バタキ・綿棒に付けて受粉（相互交配）する方法もあります。

※授粉適期：1回目：5～6分咲き頃 2回目：満開～満開後

もも貯蔵花粉の受付

もも・ネクタリンは天候状態により開花・満開が極端に進み、当用花粉では間に合わない場合や、凍害に遭遇した時に花粉のある品種でも人工受粉が必要となる可能性がありますので、桃花粉の貯蔵をおすすめします。

◆共同開葯所（ぶどうセンター内）では、次年度に使用するための貯蔵花粉の受付を行います。

◆採取する花は、白鳳・あかつき・なつっこ・白根白桃など花粉の多い品種がおすすめです。

春に苗木を定植する場合の注意点

※春に苗木を定植した場合、土壌の乾燥による生育不良が心配されます。

※降雨がない日が3～4日続く場合は、こまめにかん水を行ない、土壌の乾燥防止に努めましょう。

次回特報配布日
5月1日（予定）